



2011年5月30日発行（通算第61号）

発行 福井 甫方 呑川の会

連絡先 〒146-0066 大田区雪谷3-15-14

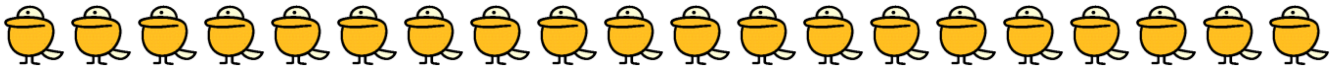
呑川の会 HP

<http://home.m00.itscom.net/nomigawa/>

<http://home.t07.itscom.net/nomigawa/> 【第2】

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>

の み が わ



呑川の会 総会のお知らせ

23年度呑川の会総会を次の通り実施します。18日の呑川シンポジウムに引き続いての行事ですが、世話人選出等の重要議題がありますので、万障お繰り合わせのうえ、是非ご参加ください。

開催日時 6月25日(土) 14時～17時予定

会場 大田区立蒲田小学校3階 図書室

なお総会終了後、懇親会を併せて実施しますので、こちらにもご参加ください

呑川の会 代表 福井 甫

呑川を軸に豊かな生きものの生息する大田区を！

シンポジウム開催のお知らせ

呑川ネットとして第3回の呑川シンポジウムを開催することにしました。今回のテーマは「大田区を貫流する呑川を一つの軸として水とみどりのネットワークを充実させ、豊かな生きものの生息する大田区を目指す」で、基調講演に高名な生態学の鷺谷いづみ教授をお迎えすることができました。鷺谷先生は「自然再生（中公新書）」、「生態系を蘇らせる（NHK ブックス）」、「につぼん自然再生紀行（岩波科学ライブラリー）」など多数の著書を出されています。

また大田区からはこの4月策定した緑の基本計画のまとめ役のまちづくり管理課大橋英一さん、パネリストも呑川の藻、水生昆虫、魚、野鳥について詳しい方々 地理的にも大田区の西北の嶺町小学校、東南のリトルターン・プロジェクトからとバランスよく参加くださり、豊かなシンポジウムが行えるものと楽しみにしています。

ただ会場は当初 日本工学院専門学校を予定していましたが、東日本大震災の影響で日本工学院の授業計画が変更され使用できなくなり、会場の変更が余儀なくされました。

シンポジウムの概要は次の通りですので、多数参加くださり充実したシンポジウムが行われますことを期待しております。

呑川シンポジウムの概要

呑川流域連絡協議会 主催 日本工学院専門学校 共催 パルシステム東京 協賛

開催日時 6月18日(土) 13時～16時 開場 12時30分

会場 大田区消費者生活センター 2階 講座室（定員62名）

入場無料 先着順

基調講演 鷺谷いづみ教授（東京大学大学院 農学生命科学研究科）

報 告 大田区のみどりと水辺環境を育てる取組み

まちづくり推進部まちづくり管理課大橋英一係長

パネルディスカッション

パネリスト

呑川の植物、生きものについて

呑川の会会員 高橋光夫さん

ユスリカを中心とする呑川の生きもの

日本工学院専門学校蒲田分校 環境・バイオ科 金田彰二先生

カモ類の分布から見た呑川の河川環境の特性

千葉大学園芸学部大学院修士 赤木光子さん

リトルターン・プロジェクトから見えてきたもの

リトルターン・プロジェクト代表 増田直也さん

多摩川の自然

大田区立嶺町小学校 牛島貞満先生

生産緑地のその後 2

福井 甫

久が原の旧中島家生産緑地に対しては去年 11 月 4 日付で ①旧中島家生産緑地の洗い場保存を含む公園化 ② 生産緑地全般に対する活用方法の検討要請 につき呑川ネットから大田区の文書で要請していましたが、それに対する回答が 2 月 2 日にありました。その骨子は次の通りです。

- ① に関しては区として公園化はできないが、洗い場の歴史的な意義を表示するサインは設けることは理解し、建設業者である明和地所(株)にもその方向で指導、同社もその方向で検討を進めていることは大坪さんの別途報告のとおりです。
- ② に関して大田区の回答は次の通りです。

「生産緑地は市街化区域内の貴重な都市農地での営農を図るとともに、地域環境の維持向上に資する制度で、区は、生産緑地を含む区内の私有地の緑について、できる限り維持・保全することが重要であると考えております。」

これは原則論としては全くその通りですが、現実には区は生産緑地としての保存策は何も実施していません。私が産業振興課にヒアリングした内容では、生産緑地を農業の対象として考えるには大田区内では対象としてあまりにも小さく、無理であり、現在実施していることは、年数回 生産緑地の保有者に集まって状況報告をしてもらっているだけとのことでした。これはある程度農地の残る世田谷区と違うところで、世田谷区では「世田谷区から日本の農業を変えていく」との意気込みの元、25 年後の世田谷区の農業の姿をイメージした世田谷区農業振興計画「改訂版」を去年の 6 月に制定しています。

とすると大田区の場合、どのように「生産緑地」として残していくのか、所有者が生産緑地として維持できなくなったとき、大田区が買い取ったという報告はありましたが、生産緑地として維持できたという報告はありませんでした。一義的には生産緑地として維持されることが望ましく、そのための方策に知恵を絞るべきであるが、他方客観的に見て生産緑地として維持は困難なケースもあると思う。ただいづれにせよ、緑地としては維持できる方策を区にも働きかけていきたいと思う。

善福寺川ウォーキング

高橋光夫

この文は、前60号「改修後の生ものたち 高橋光夫氏」及び「善福寺川ウォーキング 折戸氏」と合わせ、ご覧ければ幸いです。



「呑川の会」が年2回歩く、白石さん案内の「他河川ウォーキング」は、楽しいばかりでなく、「河川」というものを理解する上でとても参考になります。昨年秋（2010/11/6）の「善福寺川ウォーキング」を振り返ってみましょう。詳しくは、会報「のみがわ」2月3日号に折戸さんがレポートされていますので、それとは違った視点で見

みます。善福寺川は都市中小河川でありながら、自然の雰囲気のある川です。それは、護岸のあちこちから湧水がほとぼしるように入り込むことから、その水質の良さがうかがえます。

もちろん、「呑川」と同じように、下水道管からのオーバーフローも流入します。この「善福寺川」の両側通路は、自動車が通れないほど狭いのも特徴です。

散歩する人にとっては、車の心配が無く、気持ちをリラックスさせて歩くことができます。呑川の池上付近がそうであるように、「善福寺川」にも「高水敷」があちこちに作られています。また、「善福寺川」では、



ちゃんとした仕掛けがあり、傾斜部分に小石が置かれ、「せせらぎ」が起きるようになっているのです。



この上流側は、「ゴロタ石」の高さだけ「静水域」「トロ場」が作られ、いわゆる「瀬」と「淵」が織りなす自然河川らしさがかもし出されています。そして、この「魚巢ブロック」と対をなすように「せせらぎ」が設置され、積極的に「溶存酸素」を増やす仕組みになっていることが多いのは、とても良い生物配慮だと思います。



我が「呑川」でも、このような場所が無いわけではありません。（呑川の八幡橋下流ですが、新しく改修された区間には、植栽帯に隙間を設け、魚が逃げ込めるミニミニワンドのようなものが作られました。この場所にはさっそくコサギがやって来ています。）善福寺川には、歩いて見られる小さな区間にも、きちんと「蛇行」が保全されているのです。

川は蛇行しているのが自然の姿ですから、善福寺川は子どもたちにとってもすぐれた学習対象になります。呑川は、そのほとんどが「直線化」され、川の魅力が半



減しています。川の「蛇行」の内側は、水の流れが緩やかになり、土砂がたまり、「砂州」が出来ます。水深が浅く、足が底に付いて常に泳ぎ続けなくても流されないこんな場所を、カモたちは休息場所として利用しています。自然河床に近い「善福寺川」では、こんな姿をよく見ることが出来ます。



「善福寺川」のフェンス(転落防止柵)は、スッキリとして美しく、細い棒なので、川の視認性がとても良いので、親水フェンスと言っても良い気持ちの良さがあります。「呑川」ではなぜそれが出来ない? 「呑川」の兩岸の道路は車が走ります。車が走れば、走るなりの安全基準が必要になります。車がぶつかっても、川に落下しないだけのフェンス強度が求められるのです。「善福寺川」の良いところは、川そのものの魅力を伝える「サイン」・・・案内板があることです。「蛇行」が維持され、「砂州」が出来ていることも記述されています。こういうサインを見て、人々は川に愛着を持つでしょう。

ご紹介

写真のように、護岸の所々には空洞のコンクリート製品が並べられています。これは「魚巢ブロック」といい、主に魚類の生息や増水時における避難場所などの提供を目的として、人工的に設置されたものです。ブロックには口が開いており、魚類が自由に入出りできる仕組みとなっています。松漢橋から下流域によく見られるもので、形状は様々なものがあります。

① 魚巢ブロック

善福寺川には、今も忘れてはならない歴史があります。1840年、天保の大飢饉を契機に、当時水不足で困っていた旧桃園川流域へ善福寺川の水を分水する用水路を開削しました。現在の大谷戸橋付近から一部トンネルで潜る大工事でしたが、江戸(天保)時代の農民の汗と労苦の結晶は、その後天正時代まで中野・高円寺・馬橋村の水田を潤したのでした。

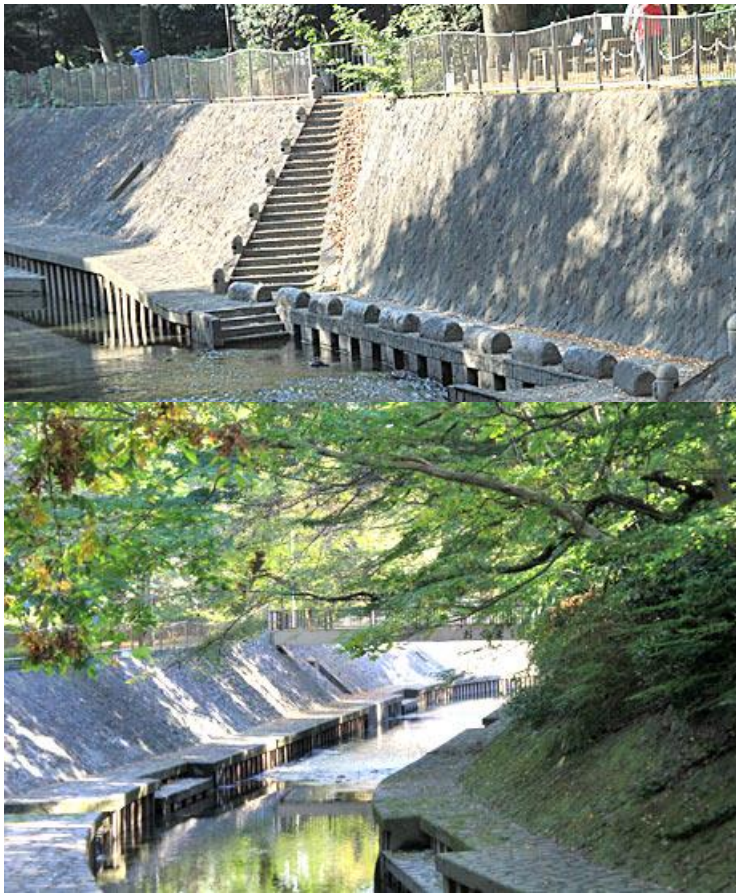
② 天保新堀用水路

西田端橋から下流域には、善福寺川緑地が兩岸に延びています。武蔵野の面影を色濃く残すこの緑地は、

さて、どうしても気になるのが「親水階段」です。川に降りられる、水辺に触れられる仕組みが各所に見られるのは、うらやましい限りです。川の蛇行を利用して「砂州」が出来ているところに、親水階段が設置されているところも多く、子どもたちが「川遊び」「水遊び」をし易く配慮されているのもステキです。鉄格子の階段でなく、全体的にしゃれたデザインが「親水性」を好ましくしています。



「砂州」にやってくるカモたちが間近に見られ、生きもの観察をしない人にとっても心安らぐ空間を提供しています。



「呑川」にも、こういう空間が本当に欲しいと思います。

しかし実際には、昨今の「ゲリラ豪雨」などもあって、この親水階段は「河川管理」のためにだけ使われていることが多いようです。

「善福寺川」は、水と緑が調和した美しい川でした。そして、川底がよく見える水の美しさは、心をなごませるものでした。

呑川以外の他河川を見る・・・それは川を知り、深めるためにとても良いチャンスですし、楽しい時間となります。

初めての

おなづか小学校 4年生呑川ウォーク引率

大坪庄吾

元の勤め先である「おなづか小学校」から、呑川ウォーク引率のお声がかかった！打ち合わせ会議に出てみると、実施日は、5月26日（木）の午前中とのことで、それまでに時間的余裕はないが、急遽、引率者を呑川の会、その他にメール等で呼びかけた。幸運にも、数名の引率申し出があり、無事、実施できた。当日は、薄曇りで、風もなく気温も温暖で、願ってもない「ウォーク日和」であった。この学校は、呑川右岸大平橋から約100mの所にあり、従来から呑川とは縁は深かった。聞くところによると、従来から呑川ウォークは、先生のご引率で実施していたが、今回、初めて呑川の会に引率を依頼したとのことであった。

4年生 2クラス 63人

校長:酒巻浩二 担当・担任:篠橋先生、他に保護者数名(安全確保)

学校正門 8:15分集合

学校出発:東急池上線で、蒲田駅より御嶽駅に到着し、東調布公園よりウォーク開始しました。

途中、道々橋付近では、直井家の畑を確認し、河川工事現場を通過しながら観察しました。

その下流では、洗足流れが呑川に流れ込んでいるのを確認しました。

久根橋 下水雨水吐け 観察 北の橋 第二京浜国道を渡り

池上橋 ここから汐の満ち干があることを話す 谷築橋 水害が多かったことを話す

霊山橋 本門寺の参道になっていることを確認する 堤方橋 池上道(中原街道)を渡る

日蓮橋 河道が直線になっていることを確認 双流橋 大森方面に流れる水路があ



ったことを確認 橋の名の
わけ(由来)を説明

太平橋 ここまでで
呑川ウォークは終わり お
なづか小学校へ向かい、学
校に12時過ぎに、無事、帰
着しました。

途中、根方橋～北の橋間で、
幸運な生徒達は、美しい翡
翠色の羽を広げて川面を
飛翔する「カワセミ」を目撃
し、感動して、歓声あげてい
た。

また、久根橋の袂に所在の
廃紙・古紙回収業(工場)で

ある、「豊田八郎商店」で、工場見学し、お土産にトイレトペーパーを貰い子供たちは、大喜び
であった。

引率者:折戸、菱沼、高橋、工藤、と大坪の5名。

<上の写真:東調布公園で、呑川ウォーキング開始前の下橋先生の注意を聞いて、いよいよ、出発!>

<呑川沿岸(工大橋～河口)の樹木シリーズ>

第11回 「躑躅(つつじ)」 可児 昭雄 記



桜も散り「目に青葉 山ほ
ととぎす 初がつお」と歌われ
るように、木々の葉が芽吹き
出し始めると、「つつじ類」
が咲き続ける。

呑川沿いの道路・公園には、
植え込みとして「おおむらさ
きつつじ」「さつきつつじ」
が多く、若干「きりしまつ
つじ」が植えられている。4月
下旬から咲き始めるのが「き
りしまつつじ」「おおむらさき

つつじ」で、前者は花が小さく赤色が多い。後者は花が大きく紫色が多いが、ピンク・白
の紋が入っているのがある。そして、これらの花が散り出すと「さつきつつじ」の赤花
が咲き出し、6月頃まで眼を楽しませてくれる。「さつきつつじ」は園芸品種が多く、盆栽
の愛好者が多い。

花を咲かせるには、花後すぐに剪定する。7月下旬は翌年の花芽が形成される。それ以

後の強剪定は行わない。そして水はけが良く、日当たりの良い所、特に秋と冬の日当たりは重要である。

[池上第二小学校前、写真・白石琇朗]

おおむらさきつつじ・ツツジ科

平戸つつじ系の園芸品種。

さつきつつじ・ツツジ科

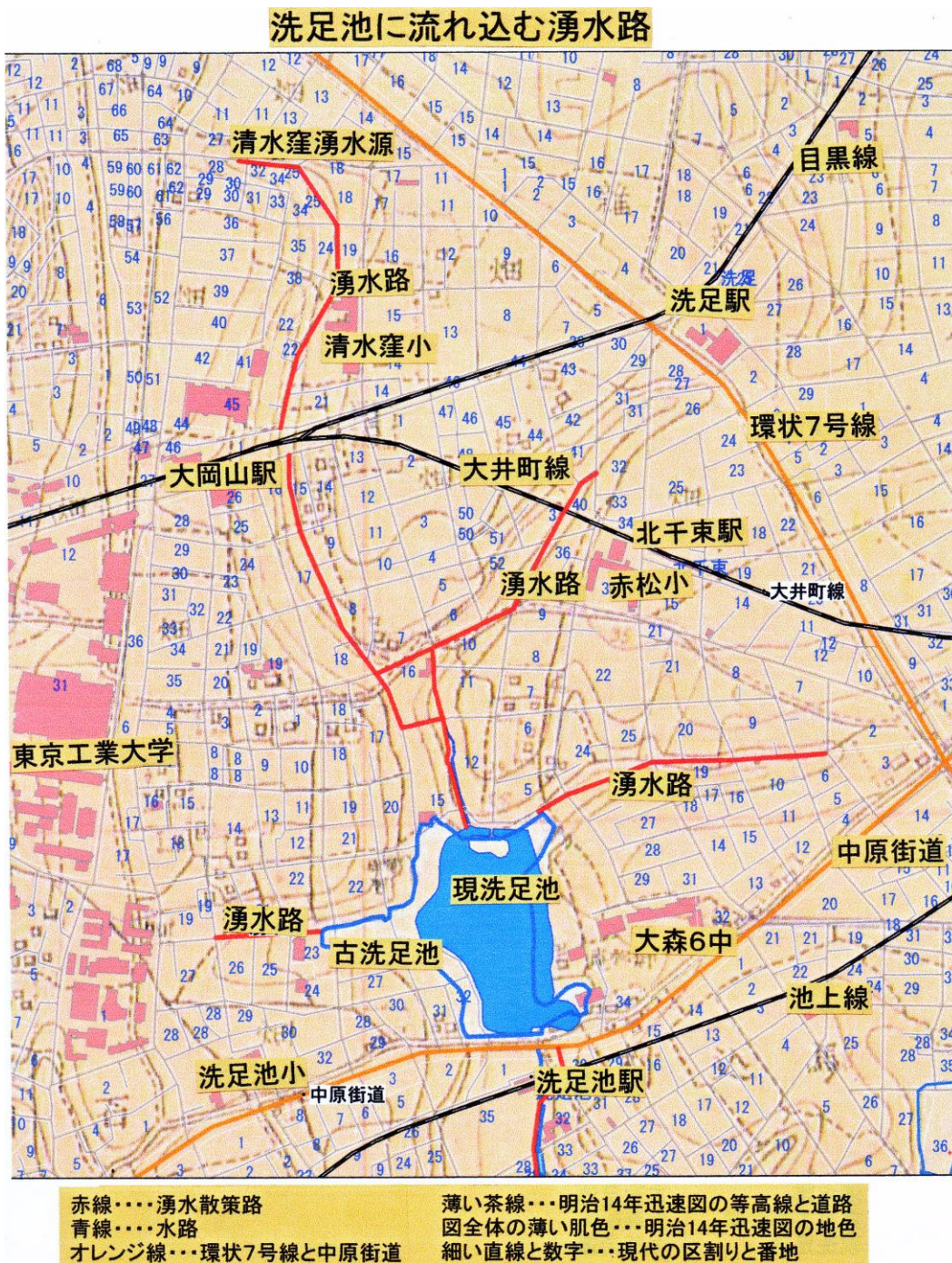
川岸の岩上に自生、園芸品種が多い。

きりしまつつじ・ツツジ科

鹿児島または霧島山に原種があると言われている。

呑川に合流する「流れ」考

白石 琇朗・寄立 美江子





村で悪水が石川流にも注いでいた。

今回は千束流の上流部分の洗足池近辺について紹介します。洗足池は池上線の開通の昭和の初めに残土を利用し、池の中に弁財天の島を造り、四隅（図書館、洗足ハイツ、池上部の左・右）を埋め立て東京の名勝地洗足池として、電鉄が宣伝し有名になった。規模は、東西 167m・南北 280m・周囲 1,179m 程の池で、深さは 3～1.2m とされている。

洗足池の水源は、昭和初期までは 4ヶ所ありました。

①清水窪の湧水（北千束 1 丁目 26）

目黒区と大田区の境の小道の断崖下から現在も湧き出していて、弁財天を祀っていて、周囲は樺・檜・杉等の樹木が繁茂している。（写真左柵内が湧水流れ）

②貉窪の湧水（北千束 2 丁目 2 付近）

現在の環七西側の窪地の杉山の中から湧き出していた。この貉窪湧水と清水窪湧水の流れが桜山の下近くで合流し、水量豊かな流れとなって池に流入していた。

③長原の湧水（南千束 1 丁目 1）中原街道と環七との交差点の北側で品川区に近い北側の台地の下の窪地の竹藪の中か湧き出していた。

④出穂山下の湧水（南千束 3 丁目）一番水路が短く水量も少なかったが、千束八幡神社下手窪地の竹藪の下から湧き出していた。

残堀川・根川緑道ウォーキング

折戸 清・白石琇朗 記



4月2日（土）に恒例の春のお花見ウォーキングを行った。当日は暖かな晴天に恵まれ 11名の会員が参加した。午前 10 時半に J R 西立川駅を出発し、富士塚がある浅間神社を通過して残堀川の富士塚橋へ出た。コンクリート護岸の川には水がほとんど流れていなかったが、河原には黄色の菜の花が一面に咲いてきれいであった。やがて川は水があれば、立川段丘を滝に

なって流れ落ちるためか、滝口橋と滝下橋と称する橋が続いていた。山中坂下橋から川に水が少し流れるようになって、カルガモやコイが見られるようになった。J R 中央線のガ



ードをくぐり、すぐ段丘を登り立川氏城館跡に建てられた普濟寺という大きな寺に立ち寄ったが、眼下の残堀川・街並みと遠くの奥多摩の山々の眺めがよく、また境内にはきれいな柴崎用水が流れていた。また段丘を下り、段丘沿いに2分咲き位の桜並木が続く残堀川を少し下ると、当日の見所である根川緑道への分岐点に来た。この緑道は高度処理した下水処理水を使用したせせらぎが造られており、緑の樹木の下を気持ちよく散策できた。緑道は上流から下流まで、A生物が棲むゾーン、B清流遊びゾーン、C休息エリアゾーン、D

散策エリアゾーンの4つのゾーンから構成されている。最後のDゾーンは旧根川そのものを散策できるようになっており、3分咲きの桜並木の下を気持ちよく歩いた。またコブシの真っ白な花も多く見られた。

途中で旧甲州街道を少し歩いて日野の渡し碑、残堀川の多摩川合流点、立川錦町下水処理場（根川緑道のせせらぎに使用するための高度処理下水処理装置が見られる。）などに立ち寄った。立川公園で昼食をとった後、多摩川からの「府中用水分岐点」に立ち寄り、古い吊り橋をイメージさせる木造の根川貝殻板橋に着いた。ここからは府中用水の樋門へ立ち寄った後、武蔵野の面影が残る道をしばらく歩き甲州街道へ出た。途中矢川の流れを通り過ぎてJR矢川駅に到着した。東日本大震災が発生して以来毎日心が痛む日が続いたが、今回のウォーキングではたっぷり歩き、心が少しいやされた感じがした。

今後のスケジュール

- 6月11日(土) 呑川ネット定例会 於 消費生活センター
- 6月13日(月) 久原小 呑川ウォーク 雨天の場合は、16日(木)に延期
- 6月18日(土) 呑川流域連絡協議会(呑川ネット)主催シンポジウム
- 6月25日(土) 呑川の会 総会 於 蒲田小3階 図書室
- 6月下旬～7月上旬 呑川ネットと大田区との意見交換会

<編集後記>

今号には、投稿頂いた記事がたくさんありましたので全10頁建てとなりました。高橋さんの「善福寺川ウォーク記事」は、会員やその他宛に定期的に配信されるメールから、文章や写真を抜粋させて頂きました。紙面の関係で写真枚数を減らせざるを得なかったことを、お詫び申し上げます。

また、大田区提供の「呑川の水質浄化実験について」の資料及び記事は、次号「のみがわ」に掲載します。いよいよ、産学官連携の呑川浄化装置の実験が、始まることとなります。皆で、期待したいと思います。

工藤英明記